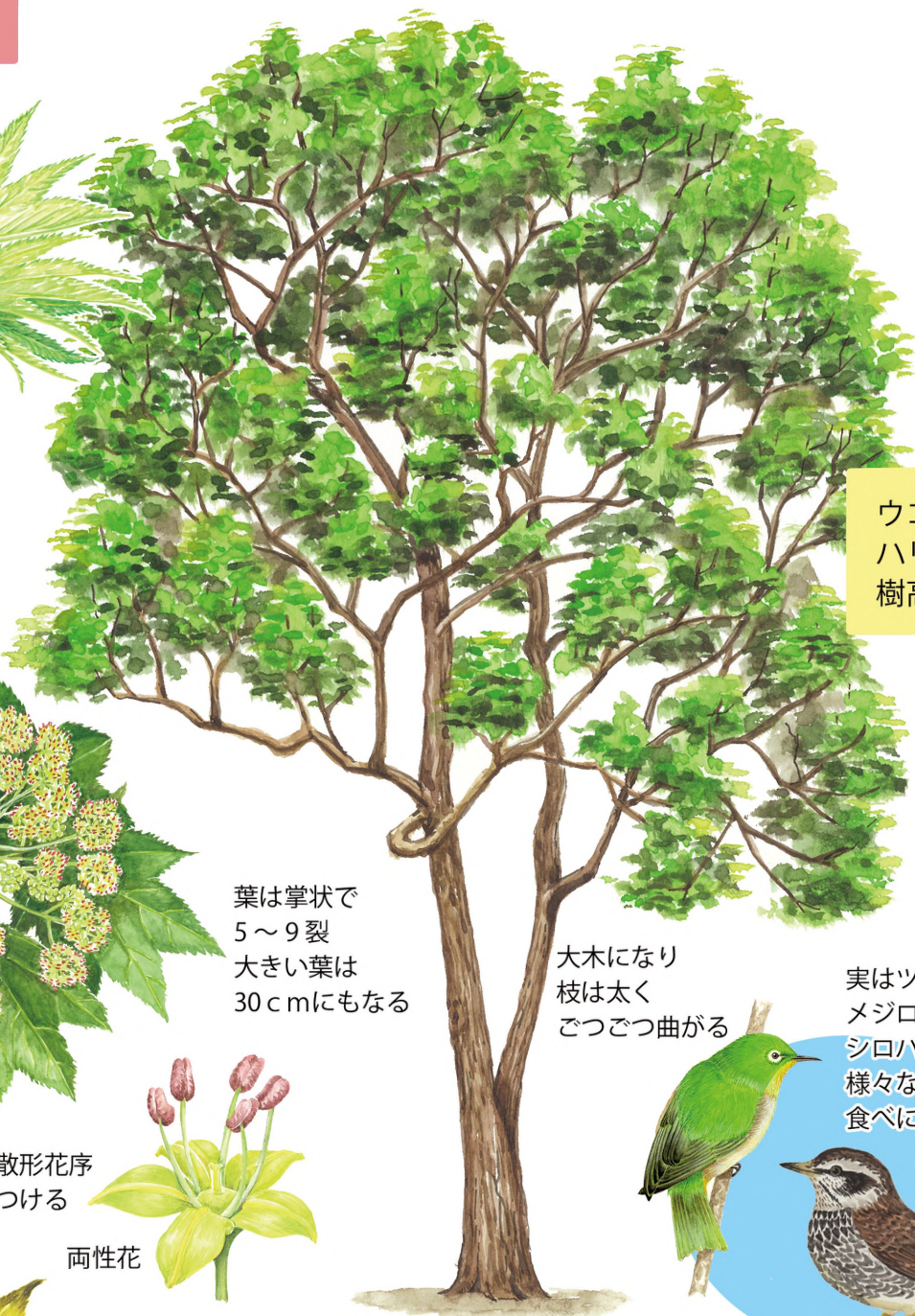


ハリギリ

ウコギ科
ハリギリ属
樹高 30m



大木になり
枝は太く
ごつごつ曲がる

実はツグミ、
メジロ、ヒヨドリ、
シロハラなど
様々な野鳥が
食べにくる



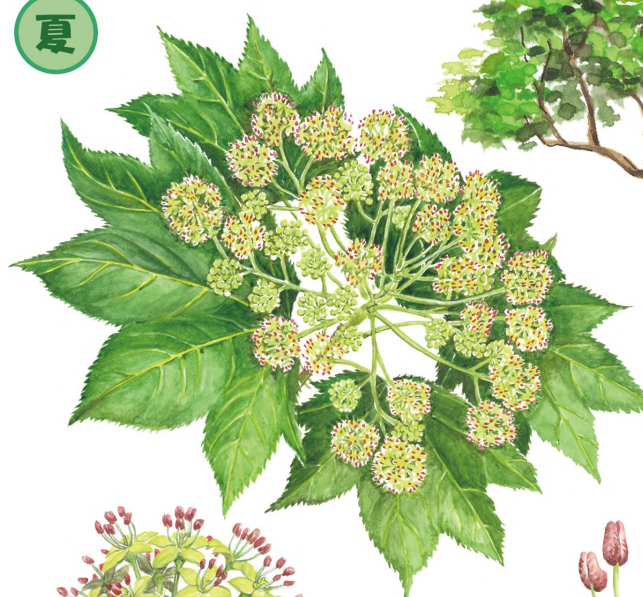
四季の観察ポイント

春

開葉直後の
葉の裏面は
脈腋に毛が
あるが
成長すると無毛に

若い枝には
鋭いとげがある

夏



葉は掌状で
5~9裂
大きい葉は
30cmにもなる

球形の散形花序
を多数つける

両性花

秋



実が黒く熟す
実は鳥に食べられ
種子が散布される

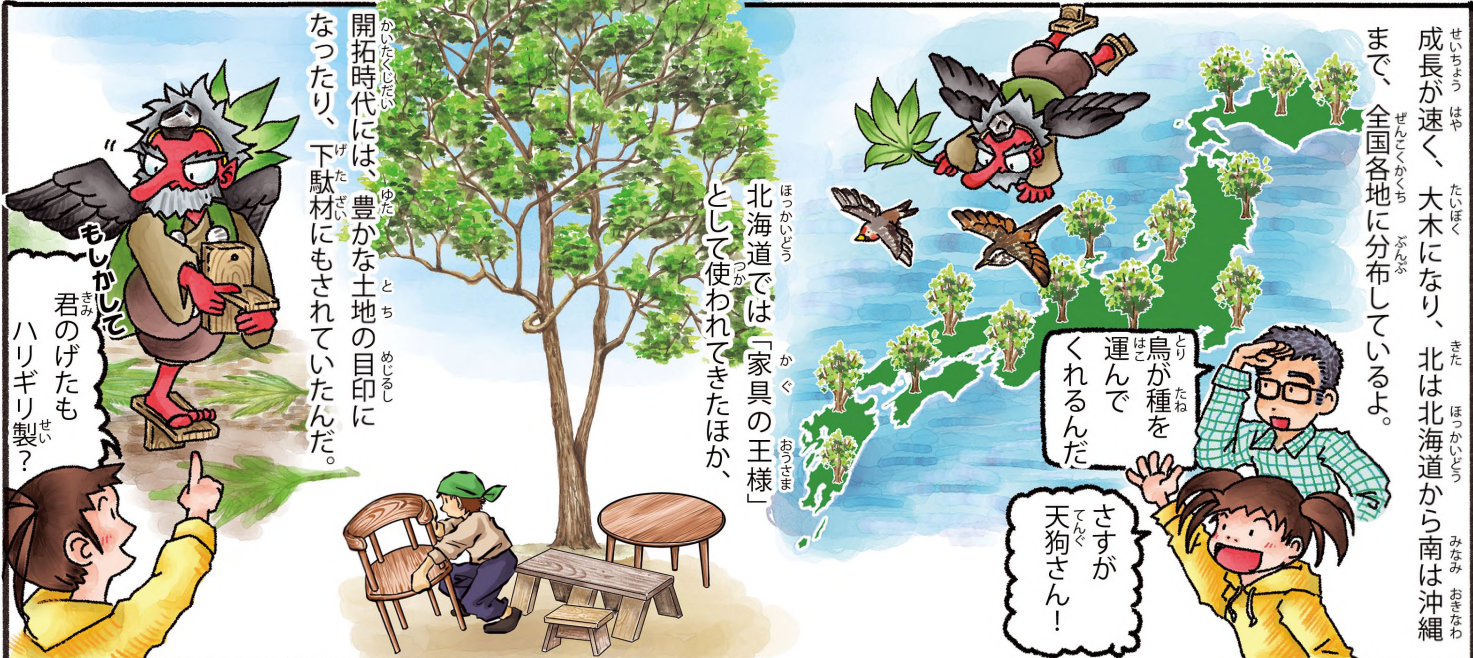
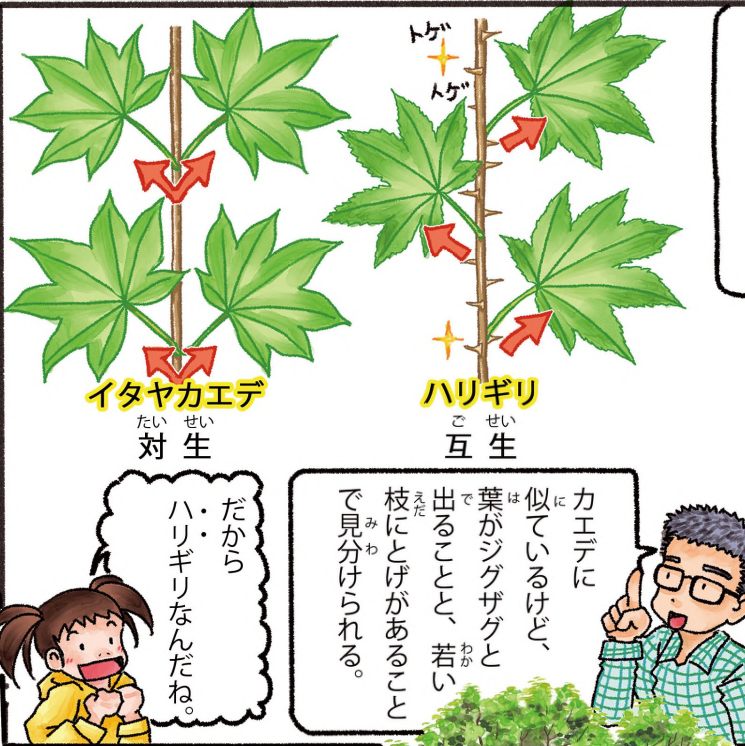
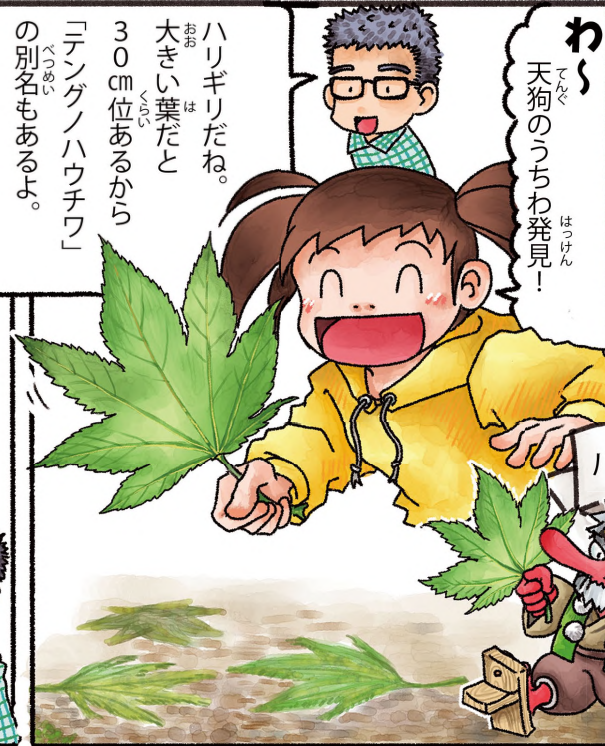
冬

太い1年生枝に
大型の頂芽と
半月型の葉痕が
目立つ



樹皮は厚く、縦の
割れ目が目立つ
大径木ではとげは
突起が残る程度

リン子の絵日記



ハリギリとくわいさのつながり

ハリギリは木目が高級材のケヤキに似ており、程よい硬さで加工しやすく、仕上げた面に光沢がでる良材です。

家具や合板などに利用され、主産地の北海道では「家具の王様」とされてきました。

年輪が広い材は硬く「オニセン」、年輪が狭い材は柔らかく「ヌカセン」と呼ばれ区別されます。

昔は下駄材にも使われていました。若芽は山菜として人気があります。

アイヌ民族とハリギリ

アイヌ民族はハリギリを「とげのある木」の意味である「アイウシニ（アユシニ）」と呼びました。

お盆や木鉢、白や杵など日用的な細工に用いたほか、丸木舟にも利用したそうです。

「アイ」はアイヌ語で「とげ」の意味です



昔は下駄材として
キリやハリギリが
利用されていました